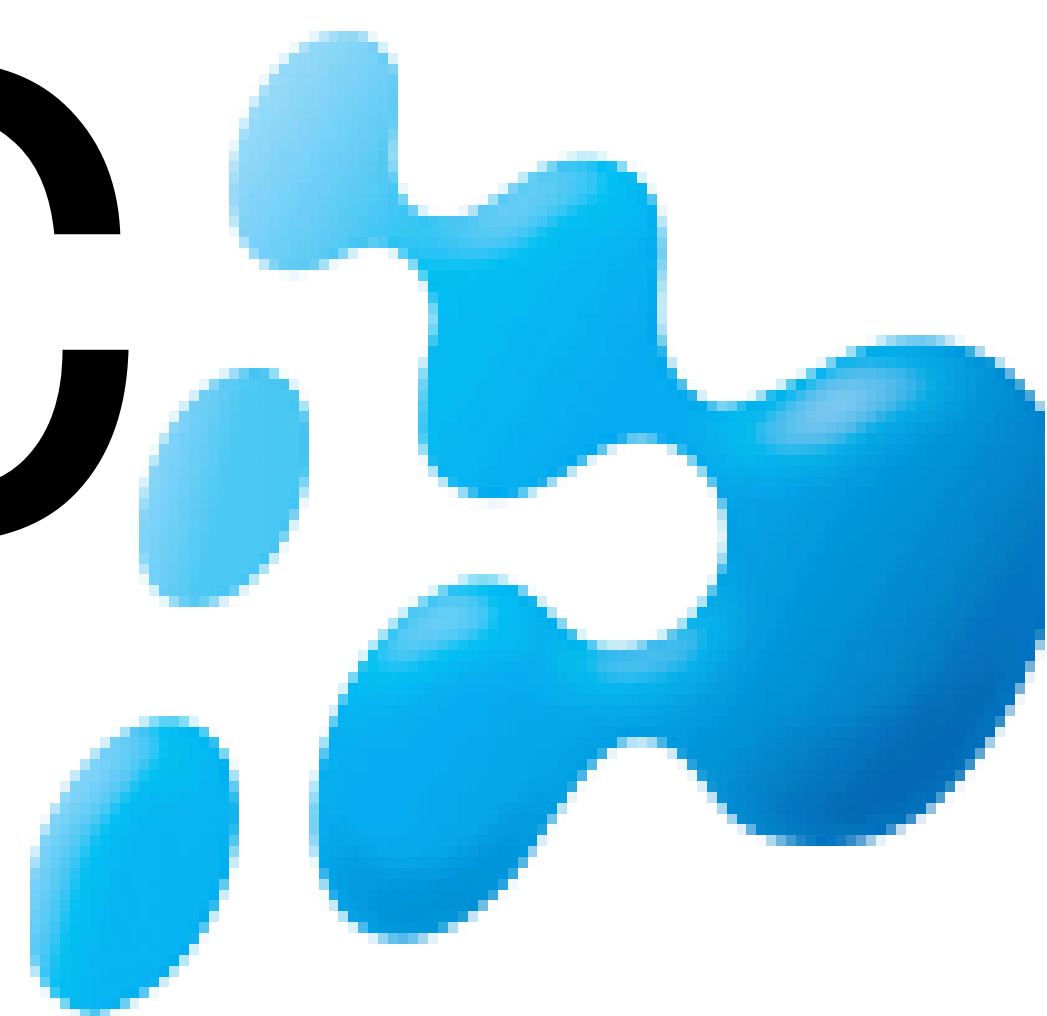


I D P C

Incubation of Development
Project Creators



2015年度事業報告書

1 プログラム趣旨

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

近年、マスメディアの国際的発達や航空券価格の低下などに伴い、「発展途上国」や「国際協力」といった分野は若者の間で大きな「ブーム」と化しています。しかし一方で、関心を抱く若者に対する学びの場や行動に移すためのサポートは十分に提供されていません。

その結果、若者が十分な知識やノウハウを持たないままアクションを起こしてしまうというケースが多くみられます。そして多くの場合次に待っているのは、強い関心と正義感を持って行動を起こした若者が挫折し、途上国の方々にも悪影響を与えてしまうという最悪のシナリオです。

私たちはこうしたせつかくの若者の関心や情熱を、最悪のシナリオではなく実際の問題解決に直結させるための環境が絶対に必要だと考えました。そこで、現地NGOや国際開発機関と連携したフィールドリサーチや大勢の専門家・コンサルタントによるサポート、そして現地の同世代との共創により若者を最大限エンパワーメントする「社会事業創発プログラム」を実行します。

また、現在日本の若者が行っている国際協力は、現場を日本人の目で見、聞いて、感じてわかったことを基に、日本人のみで解決策を考えて実施されている場合が多いです。

しかし途上国に存在する開発課題とは複雑な構造的要因や文化的慣習に深く根付いたものばかりであるため、現地で暮らしている方々や長年現地で活動されてきた方々の協力無しに本当の問題解決は成し得ません。そこで今年度事業では、現地の同世代との共創により確実に現地に裨益するプロジェクトを実現させることが出来ました。

過去7年間の実績を積み上げてきたIDPCは、これらを通じて将来国際社会で「21世紀型リーダー」として活躍する人材を養成すると同時に、現在途上国で人々を苦しめ続けている“市場の失敗”の解決に取り組んで参りました。そのプロセスと成果を是非御覧頂ければと存じます。

2015年度IDPC代表 太田優人

2 事業概要

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

2015年8月

元UNWFPアジア地域局長忍足謙朗様・元UNIDO東京投資促進事務所次長西田純様によるご講演と事前調査

2015年9月

UNDP・JETRO・UNWFP・(株)長大・Global Peace Foundation・Cabiao地方政府からのブリーフィングや現地フィリピンの学生との共同フィールド調査、フィリピン大学でのプランニングコンテスト

2015年10月

ソーシャルビジネス専門家・戦略コンサルタントの方々による事業プランのコンサルテーション、途上国支援・ビジネスの専門家の方々によるキャリアフォーラム、中間審査

2015年11月

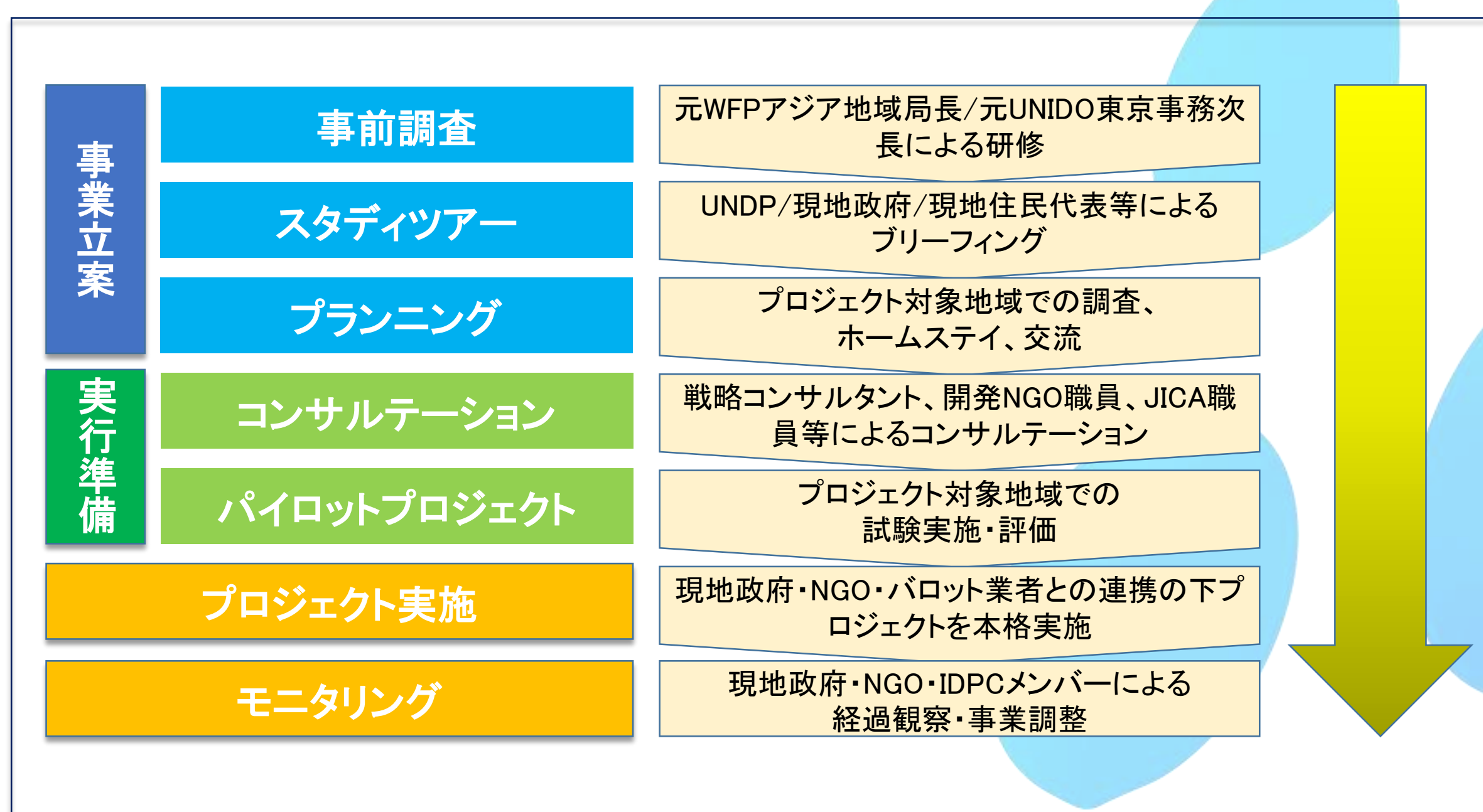
ソーシャルビジネス専門家・戦略コンサルタントの方々による事業プランのコンサルテーション、ファイナルプレゼンテーション

2015年12月～2016年3月

フィールドリサーチvol.2、パイロットプロジェクト実施、プラン再構築

2016年4月

プロジェクト実行



2016年6月

投資資本回収開始

2016年8月

現地渡航・新規事業にかかるフィールドリサーチ

2016年10月

投資資本回収終了・新規事業展開

3 Kick-off セッション

概要

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

1. 日時

2015年8月10日(月)13:15-16:50(13:00開場)

2. 開催場所

- ・国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟第二ミーティングルーム(現地集合)

3. 趣旨

4ヶ月間のプログラム開始に際して、参加者同士の交流と訪問先フィリピンに関する基礎情報の収集、並びにロールモデルとなる専門家の方々のお話を伺うことによるモチベーションの強化やプログラムを通じた目標の明確化を図る。

4. タイムテーブル

13:15 - 13:20	開会式
13:20 - 13:45	チーム・ビルディング
13:45 - 14:30	プロジェクトサイトに関する事前調査発表
14:30 - 14:35	小休憩
14:35 - 15:45	基調講演①忍足謙朗様
15:45 - 16:50	基調講演②西田純様
17:30 - 20:30	ネットワーキング・パーティー(任意参加)

5. 講演者紹介

- ①忍足謙朗様(元国連WFPアジア地域局長)
- ②西田純様(元国連工業開発機関東京事務所次長)

4 フィールドプログラム 概要 (1)

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

1. 開催期間

2015年9月14日(月)～9月20日(日)

2. 活動場所

フィリピンマニラ、カバイオ(Global Peace Foundationのプロジェクトサイト)

3. 宿泊地

The Oasis Paco Park Hotel、プロジェクトサイト付近でのホームステイ(フィールドワーク中)

4. 趣旨

現地でのフィールドワークを通して、本当のニーズを見つけ出すと同時にその解決策をRapid Prototyping形式で探り出す。また現地で活動を展開する国際開発機関や企業、NGOなどの活動について学ぶことで、自らの解決策に必要なフレームワークを見出す。さらに、選抜された現地フィリピンの優秀な学生と寝食を共にし徹底的に議論することで、「現地の視点」から真の問題発見と解決を目指す。

5. 形式

日本人参加者4名＋フィリピン人参加者2名＋運営スタッフ1,2名で構成するチームを5つ編成。フィールド調査時やウェルカムパーティー、フェアウェルパーティー以外の食事、フィールド調査の際にこのチームで行動した。

4 フィールドプログラム 概要 (2)

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

一日目

- ・ 日系企業の方々からのブリーフィング
- ・ フィリピン側コーディネーターとの交流

二日目

- ・ 国連WFP事務所でのブリーフィング
- ・ JETROフィリピン事務所でのブリーフィング
- ・ キックオフセッション(フィリピン側参加者との面会)
- ・ Global Peace Foundationによる基調講演

三日目

- ・ カビヤオ地域への移動
- ・ カビヤオ市長、教育長等の政府関係者による講演、インタビュー
- ・ プロジェクトサイトでのフィールドリサーチ、課題設定

四日目

- ・ 保健、教育、経済担当の地方官僚の方々へのインタビュー
- ・ 文化交流セッション
- ・ プロジェクトサイトでのフィールドリサーチ、解決案のコンサルテーション
- ・ 交流パーティ

五日目

- ・ プロジェクトサイトでのフィールドリサーチ、解決案のコンサルテーション
- ・ 地方政府関係者へのインタビュー
- ・ マニラへの移動

六日目

- ・ Philippines-Japan Youth Leaders Summitの開催
- ・ プランニングコンテスト(審査員: Global Peace Foundationフィリピン事務所長他職員)
- ・ フェアウェルパーティ

七日目

- ・ マニラ観光

5 Mid-termセッション

概要

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

1. 日時

2015年10月11日(日) 13:20~16:50 10月12日(月) 9:30~16:50

2. 場所

新宿NPO協働推進センター、国立オリンピック記念青少年総合センター

3. 目的

フィリピンでのフィールドリサーチを通してつくり上げたプロジェクトに対して様々な専門家の方々からフィードバックを頂き、最終発表に向けてプロジェクトの質を大きく向上させる機会を提供する。また国際的に様々な分野で活躍されているロールモデルと出会うことで参加者のグローバルなキャリア形成への意識向上を図る。

4. チーム別コンサルテーション概要(1日目)

ビジネス・社会事業(NPO/NGO含む)の分野の専門家の方をお招きし、グループごとに全チームのプランニング内容についてコンサルティングを行って頂く。特に課題設定とそれに対するソリューションの妥当性、実現可能性、持続可能性等の観点についてアドバイスを頂く。

5. 中間発表概要(2日目)

国際開発の第一線でご活躍されている方々を審査員としてお招きし、全チームのプランニング内容を審査していただく。1チームずつ別室にて中間発表を行った後、上位2チームを発表する。参加者は中間発表でのフィードバックを元に、11月22日の最終発表に向けてプラン内容をつめる

6. ゲスト(順不同)

- ・プライスウォーターハウスクーパース(株)幸地正樹様
- ・一般社団法人RCF 佐藤淳様
- ・戦略コンサルティングファーム所属 北野唯我様
- ・公益財団法人 日本財団 日高将博様
- ・JICA 平山 修一様
- ・ボーダーレスジャパン株式会社 取締役副会長 鈴木 雅剛様
- ・一般社団法人シェア・ザ・プラネット代表理事 筒井 哲朗様(前シャプラニール事務局長)
- ・明治学院大学 可部 州彦様
- ・ミンダナオ図書館館長 松居 友様
- ・H.I.S. (株) 取締役相談役 行方一正様
- ・難民支援協会 鶴木由美子様

6 ファイナルプレゼンテーション

概要

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

1. 日時

2015年11月12日(金) 9:00 - 16:50(一般公開 12:30 - 14:50)

2. 場所

新宿NPO協働推進センター

3. 目的

4ヶ月の集大成として、全参加者の前でプラン内容を発表する。また他チームの発表を聞いたりフィードバックをいただいたりすることで、コンテスト全体を通しての成果や改善点を把握し、今後の将来設計やモチベーションへつながることを期待する。さらに、プランニングで終わることなく事業案を実現へと向かわせる機会を提供する。

4. 概要

様々な機関／組織にて国際開発の第一線でご活躍されている方を審査員として招致し、5チームのプランニング内容を審査していただく。全員の前で最終発表を行った後、上位3チームを発表し、フィードバックの時間を設ける。

5. 審査員(順不同)

- ・明治学院大学 可部 州彦様
- ・ミンダナオ図書館館長 松居 友様
- ・ボーダーレスジャパン株式会社 取締役副会長 鈴木 雅剛様
- ・GNH研究所代表幹事 平山修一様
- ・デロイトトーマツコンサルティング合同会社キム・ジンテ様

7 プラン実行フェーズ (1) プランニングで、終わらない。

社会事業創発プログラム IDPC

1. 背景

対象地域のルソン島北部カビアオ市郊外では、毎年雨季に大規模な洪水が発生します。そのため、基幹産業である農業を十分に実施出来るのは乾季の間のみです。雨季の洪水で生計を立てる手段を奪われた村人たちは、洪水被害の無い村の知り合いを尋ね、金利50%超の借金をします。

しかし高金利だからといって必ず借金が可能なわけではなく、年によっては皆で泣きながら借金を懇わなければ必要な生活費を手にする事が出来ません。運良く高利借しを利用出来た村人たちは雨季が終わると必死に働き、乾季が終わる頃までには何とか借金を返済します。そして貯蓄が無いまま雨季を迎え、村人たちの借金を懇う日々が再開するのです。

このような高利貸に依存した生活スタイルの固定化によって、人々は慢性的貧困に苦しめられ続けてきました。また貯蓄は不可能なので、毎年同様の洪水が毎年発生するにも拘わらず村人たちは十分な対抗策を講じることが出来ません。こうして防げる被害は幾度となく繰り返され、村人たちを一層苦しめてきました。

7 プラン実行フェーズ (2) プランニングで、終わらない。

社会事業創発プログラム IDPC

2. プラン概要

2016年3月末より、マイクロファイナンスにより初年度年収400万円規模のアヒルビジネスを導入しました。

村人たちはアヒルの卵をバロット用に販売することで利益を獲得し、それを協同組合にプールすることで洪水被害の減災とマイクロ起業資金の確保を実現します。これによって、短期的には乾季の副次収入と雨季の安定収入が確保され、高利貸しへの依存を解消します。長期的には、利潤を全て対象地域の住民組合に提供し、災害対策資金とマイクロ起業資金の確保を行い、慢性的貧困からの脱却とレジリエンスの強化を実現させています。

3. プロジェクトの特徴

- ・泳ぐことのできるアヒルならではの洪水被害に対するレジリエンス
- ・フィリピン名産のバロット用の卵販売による高い利益性
- ・バロット生産者との連携による確実な販路の確保
- ・マイクロファイナンスにより担保の用意が不可能な貧困層への金融アクセスを保障
- ・現地政府や現地NGO・村落リーダーとの協力関係



8 参加者・スタッフ 一覧

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

名前	所属
井上天馬	早稲田大学国際教養学部1年
及川貴哉	株式会社インテリジェンスビジネスソリューションズ
釜坂聖	獨協大学国際環境経済学科2年
金丸博樹	東京大学文科二類2年
上村光	関西学院大学経済学部1年
古村奈々	学習院大学法学部政治学科3年
清水弘慈	筑波大学物理学類3年
妹尾真広	上智大学大学院 理工学研究科1年
宗野航来	法政大学法学部国際政治学科2年
田中佑佳	埼玉大学教養学部教養学科3年
中尾優子	九州保健福祉大学薬学科4年
中村誓人	福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科4年
服部拓磨	京都産業大学外国語学部国際関係4年
端山雅人	中央大学法学部法律学科4年
藤澤大仁	新潟県立大学国際地域学部国際地域学科3年
藤田美保	サセックス大学グローバルスタディーズ学部国際開発学4年
藤本恵理奈	東京大学文科二類2年
星めぐみ	慶應義塾大学法学部政治学科2年
山本美穂	慶應義塾経済学部2年
松本未希子	名古屋大学法学部3年
太田優人	慶應義塾大学法学部政治学科2年(代表)
中圓尾岳大	慶應義塾大学法学部政治学科2年(広報)
大木佳奈	国際基督教大学教養学部1年(広報)
平田和詩	慶應義塾大学法学部政治学科2年(企画)
三石雪瑠	上智大学法学部国際関係法学科1年(企画)
風祭沙綺	立教大学経営学部2年(総務)
上田正登	筑波大学大学院教育研究科修士課程1年(総務)
小林良太	早稲田大学法学部2年(渉外)
加島僚	早稲田大学法学部2年(渉外)
加藤木史奈	慶應義塾大学法学部法律学科2年(渉外)

9 会計概要

I. 収入の部	
区分	金額(円)
自己資金	1,019,981
参加費／入場料等	1,800,000
パシフィックコンサルタンツ(株)協賛金	150,000
かめのり財団助成金	270,000
合計	3,239,981

II. 支出の部	
区分	金額(円)
Kick-offセッション	19,136
フィールドプログラム	2,676,755
Mid-termセッション	29,238
Final Presentation	9800
プラン実行	489,572
運営諸経費・手数料	15,480
合計	3,239,981

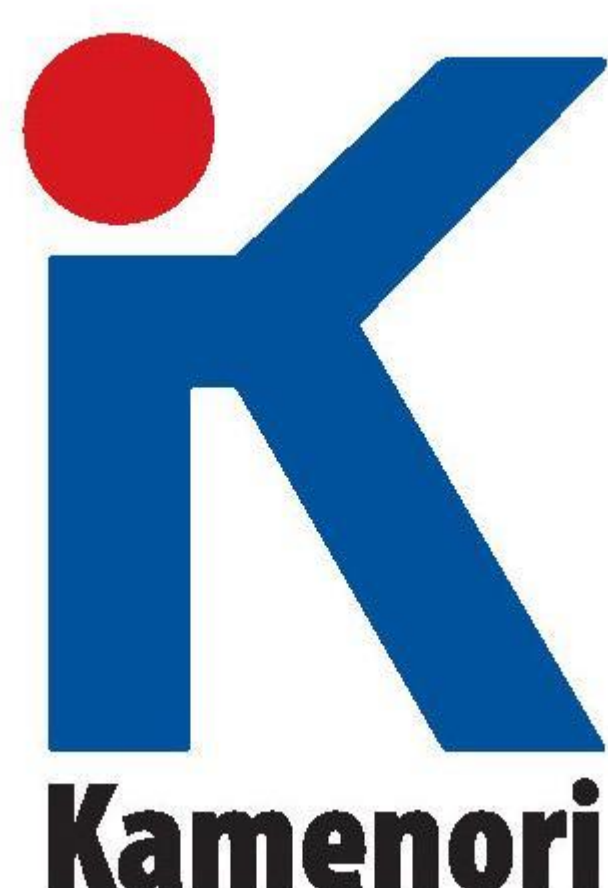
10 協賛協力団体

プランニングで、終わらない。
社会事業創発プログラム IDPC

IDPC関東運営事務局は、本プログラムを開催するにあたり、以下の団体様から協賛協力を頂きました(順不同)。誠にありがとうございました。



株式会社
パシフィックコンサルタンツ様



公益財団法人かめのり財団様

